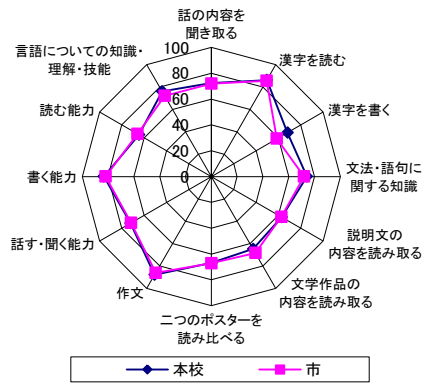


# 宇都宮市立豊郷中学校 第1学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話の内容を聞き取る	72.5	71.9
	漢字を読む	86.3	85.7
	漢字を書く	68.2	58.7
	文法・語句に関する知識	74.1	71.7
	説明文の内容を読み取る	62.9	62.6
	文学作品の内容を読み取る	64.8	68.3
	二つのポスターを読み比べる	67.0	67.2
観点別	作文	87.9	86.2
	話す・聞く能力	72.1	71.7
	書く能力	83.2	81.8
	読む能力	64.7	65.9
	言語についての知識・理解・技能	76.1	72.1



## ★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話の内容を聞き取る	本校の正答率が宇都宮市の正答率を0.6ポイント上回る結果となった。特に、話の内容を正確に聞き取る問題については、2.4ポイント上回る結果となった。 しかし、聞き手に理解してもらおうための話し方の工夫を聞き取る問題については、1.8ポイント下回っている。さらに、目的や意図に応じて、自分の考えを話す問題では、市の平均を上回ってはいるものの、49.1%とかなり低い正答率であった。生徒たちは話すこと、聞くことに関する学習には意欲を示し、楽しく取り組んでいる。しかし、体験ではなく考えを発表するとなると苦手意識をもっている生徒が多く、今後の課題となっている。	スピーチ、ディスカッションなどの単元でメモを取ることに重点を置いたり、それをまとめたりすることで聞く力、聞いたことを活用する力を養いたい。 また一方で、普段の授業の中でも、きちんとした返事、態度、発声などを指導していく。それとともに聞く態度もしっかりと身につけさせたい。
漢字	読みに関しては、本校の正答率が宇都宮市の正答率を0.6ポイント、書きに関しては、9.5ポイント上回る結果となった。 日頃から生徒たちの漢字への関心は非常に高く、ワークなどでも新出漢字の予習として読みを書く問題では、多くの生徒は辞書に頼らず答えているようだ。また読めない漢字については、自ら積極的に辞書を引く姿が見られる。日頃のそういった姿が、結果に表れたものと思われる。	近年、パソコンや携帯電話、スマートフォンの普及により、漢字を読む機会が著しく増えた。漢字が読めない大変不便である。このことを、生徒に意識させ、学習の必要性を感じさせたい。 そのためには、漢字の音訓、六書などを理解させ、読み方の見当をつけられるよう、指導していく。
文法・語句に関する知識	本校の正答率が宇都宮市の正答率を2.4ポイント上回る結果となった。特に文節に関する問題については、5.8ポイント上回り、学習内容がしっかりと定着していることが伺える。 しかし、単語に関する問題は、生徒の苦手意識が非常に高く、正答率も市の正答率を1.0ポイント下回った。 また、部首に関する問題も市の正答率を上回ってはいるものの、58.7%と六割に満たず、本校の課題が明らかとなった。	まず、単語は、文節と文の成分について、徹底的に理解できるようにし、そのうえで再度確認する。 故事成語は、教科書で大きく取り扱う「矛盾」以外の語句についての印象が薄い。本校では朝の読書を週に4日行っており、ほとんどの生徒が読書に親しんでいる。そこで、図書館の本を用いて、「矛盾」以外の故事を紹介し、興味を喚起させたい。さらに、教員自身が故事成語を授業の中で取り入れて話をしていくことで、より生徒に馴染みのあるものとしていきたい。
説明文の内容を読み取る	本校の正答率が宇都宮市の正答率をわずかに0.3ポイント上回る結果となった。また、4問の出題のうち半数の2問が、宇都宮市の正答率を上回った。 下回った問題は、二問とも文章の展開に即して内容を捉える問題についてであった。 普段の授業において、文章の構成や展開自体は捉えることができている。今後はそれに即して内容をとらえる学習にさらに力を入れていく必要があることが明らかになった。	今後も、説明文の内容の読み取りの授業においては、文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約したり、事実と意見などを読み分ける学習を積み重ねていきたい。 さらに、今後は文章の構成や展開を理解するだけでなく、接続語に着目するなどして、前後の段落の関連性を考えながら内容を捉える学習に力を入れていきたい。 また様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を生徒が身に付けることができるように取り組んでいきたい。
文学作品の内容を読み取る	本校の正答率が宇都宮市の正答率を3.5ポイント下回る結果となった。さらに設問全てが市の平均を下回っている。 特に、出題のねらい別項目で見ると「登場人物の心情をとらえることができる」とについては、宇都宮市の正答率より5.9ポイント下回り、かなり低い結果となった。 生徒は物語の展開に即し、登場人物の心情の移り変わりや豊かなキャラクター性に注目しながら読むことを楽しんでいる。しかし情景描写から心情を読み取ることは苦手としている生徒が多い。	今後も授業のみならず、「朝の読書」等を通して文学作品を生徒が自発的に読み、楽しむ姿勢を育てていきたい。 一方、問題の内容全体としては正答率が市の平均を上回ったものの、出題のねらい中、最も正答率が低かった「登場人物の心情をとらえること」や次に正答率が低かった「登場人物の様子をとらえること」については、文章の展開を確かめながら主題を考えたり、情景描写に注目し、心情を読み取ったり、生徒が考える読書に取り組んでいきたい。
二つのポスターを読み比べる	本校の正答率が宇都宮市の正答率を0.2ポイント下回る結果となった。 出題のねらい別項目では「二つのポスターを比較しながら、文章を目的に沿ってまとめて書くことができる」とについては、市の正答率を2.3ポイント下回った。 比較し、共通点や相違点を挙げることはできているが、まとめて書くということが今後の課題であることを示す結果となった。	各クラスに無解答の生徒が10%近くおり、授業で取り組んでいるとはいえ、抵抗感をもつ生徒が多くいることがうかがえる。今後はさらに授業の中で、「条件を満たして書くこと」をたくさん取り入れ、生徒の抵抗感をなくしていくとともに、条件を意識していくことを定着させていきたい。
作文	本校の正答率が宇都宮市の正答率を1.7ポイント上回る結果となった。また、すべての出題のねらいにおいても、宇都宮市の正答率を上回っている。 しかし、「三段落構成で文章を書くことができる」とについては他の出題のねらいについての正答率が85.0%以上あるのに対して、75.4%とやや低い傾向にある。 日頃から「書く」活動を意識的に授業で取り組んできたことが、今回の調査の結果に反映されている。	書くことに対して抵抗感をもつ生徒が少なく、課題作文に対して常に熱心に取り組んできたことが今回の調査に反映されたと考えられる。これからも、表現教材にしっかりと力を入れ、生徒の中に書くことに対する抵抗感が生まれぬようにしたい。 また、伝えたい事実や事柄、課題及び自分の考えや気持ちを伝えるための文章全体の構成を意識して書く力を生徒が身に付けることができるように取り組んでいきたい。